

2016年7月10日～7月17日まで、トルコ共和国のイスタンブールで、会期を短縮*して第40回世界遺産委員会が開催されました。

*トルコ国内で7月15日に発生したクーデターを受けて、会期が短縮された。

世界遺産登録数

新規登録遺産数

分類別合計

文化遺産：12件

814件

自然遺産：6件

203件

複合遺産：3件

35件

総数

1,052件

危機遺産リスト登録数

リスト入り8件

**危機遺産 総数
55件**

リスト脱した1件

◆ 危機遺産リスト入りした遺産

① ジェンネの旧市街【マリ共和国】 ② シャフリサブズの歴史地区【ウズベキスタン共和国】 ③ ガダーミスの旧市街【リビア】 ④ キレーネの考古遺跡【リビア】 ⑤ サブラータの考古遺跡【リビア】 ⑥ タドラールト・アカークスの岩絵遺跡群【リビア】 ⑦ レプティス・マグナの考古遺跡【リビア】 ⑧ ナン・マトール：ミクロネシア東部の儀礼的中心地【ミクロネシア連邦共和国】

◆ 危機遺産リストを脱した遺産

① ムツヘタの歴史的建造物群【ジョージア】

※ 危機遺産の一覧表は、本資料のP6～8に掲載してあります。

遺産保有国数と登録数

◆ 新しく世界遺産保有国となった国

新しく、ミクロネシア連邦共和国とアンティグア・バーブーダが世界遺産保有国となり、2016年8月現在、192の加盟国中、**165の国と地域**に世界遺産が存在します。

◆ 上位遺産保有国と保有遺産数

- 001. イタリア共和国【51件】
- 002. 中華人民共和国【50件】
- 003. スペイン【45件】
- 004. フランス共和国【42件】
- 004. ドイツ連邦共和国【41件】

日本の遺産数は20件で、12番目に世界遺産を多くもつ国である。

文化遺産

遺産名	保有国名	登録基準
ル・コルビュジエの建築作品：近代建築運動への顕著な貢献	フランス共和国、ベルギー王国、スイス連邦、インド、アルゼンチン共和国、ドイツ連邦共和国、日本国	(i) (ii) (vi)
ステチュツィ：中世の墓碑の残る墓所	ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア共和国、セルビア共和国、モンテネグロ	(iii) (vi)
パンプーラの近代建造物群	ブラジル連邦共和国	(i) (ii) (iv)
左江花山の岩絵の文化的景観	中華人民共和国	(iii) (vi)
ピリッポイの考古遺跡	ギリシャ共和国	(iii) (iv)
ナーランダ・マハーヴィハーラの遺跡群	インド	(iv) (vi)
ペルシアのカナート	イラン・イスラム共和国	(iii) (iv)
ナン・マトール：ミクロネシア東部の儀礼的中心地	ミクロネシア連邦共和国	(i) (iii) (iv) (vi)
アンテケラの支石墓遺跡	スペイン	(i) (iii) (iv)
アニの考古遺跡	トルコ共和国	(ii) (iii) (iv)
ゴーハムの洞窟群	英国	(iii)
アンティグアの海軍造船所と関連考古遺跡群	アンティグア・バーブーダ	(ii) (iv)

アンテケラの支石墓遺跡



© UNESCO, Marcilio Gazzinelli



ステチュツィ



自然遺産

遺産名	保有国名	登録基準
ミステイクン・ポイント	カナダ	(viii)
湖北の神農架	中華人民共和国	(ix) (x)
ルート砂漠	イラン・イスラム共和国	(vii) (viii)
西天山	カザフスタン共和国、キルギス共和国、ウズベキスタン共和国	(x)
レビジャヒヘッド群島	メキシコ合衆国	(vii) (ix) (x)
サンガネブ海洋国立公園と、ドゥンゴナブ湾・ムツカワル島海洋国立公園	スーダン共和国	(vii) (ix) (x)

複合遺産

遺産名	保有国名	登録基準
エネディ山塊：自然的・文化的景観	チャド共和国	(iii) (vii) (ix)
カンチェンジュンガ国立公園	インド	(iii) (vi) (vii) (x)
イラク南部のアフワル：生物多様性の保護地域とメソポタミアの都市の残存景観	イラク共和国	(iii) (v) (ix) (x)



フランス共和国、スイス連邦、日本国、ドイツ連邦共和国、ベルギー王国、アルゼンチン共和国、インド



文化遺産

ル・コルビュジエの建築作品：近代建築運動への顕著な貢献

The Architectural Work of Le Corbusier, an Outstanding Contribution to the Modern Movement

登録年

2016年

登録基準

(i) (ii) (vi)

▶ 建築の概念が全世界規模に広がったことを示す建築物群

「ル・コルビュジエの建築作品」は、スイス出身の建築家ル・コルビュジエの建築作品をひとつの世界遺産として登録している。フランスやスイス、アルゼンチン、インド、ドイツ、ベルギー、日本の**7カ国に点在する17の資産**で構成されており、日本からは東京の上野にある「国立西洋美術館」が含まれている。構成資産は、20世紀を代表する建築家であるル・コルビュジエの近代建築の概念が、全世界規模に広がり実践されたことを証明している。

「ル・コルビュジエの建築作品」のように、共通の特徴や背景をもつ構成資産をひとつの世界遺産として登録する「シリアル・ノミネーション・サイト」が国境をまたいで存在している場合、「トランス・バウンダリー・サイト」と呼ばれる。「ル・コルビュジエの建築作品」は、**日本で初めての「トランス・バウンダリー・サイト」**である。また、今回は構成資産が複数の大陸にまたがる「トランス・コンチネンタル・サイト」となっており、世界初の登録になる。

ル・コルビュジエは、「**近代建築の五原則**」や「モデュロール」、「ドミノ・システム」など、現在の近代建築の基礎となる重要な概念を次々と打ち出し、過去の伝統的な建築からの決別を図った。特に「①**ピロティ**、②水平連続窓、③屋上庭園、④自由な平面、⑤自由なファサード」からなる「近代建築の五原則」は世界的に大きな影響を与えた。この「近代建築の五原則」の完成形ともいえるのがフランスの「サヴォワ邸」。五原則のひとつ「ピロティ」とは、フランス語で「杭」を意味する言葉で、「サヴォワ邸」のように建物の一



国立西洋美術館本館

階部分を柱が支えることで、空中に浮いたような軽やかな造形となった。これは他にも、「国立西洋美術館本館」などで見ることができる。

国立西洋美術館本館は、実業家であった松方幸次郎が20世紀初頭にヨーロッパで買い付けた美術品群、いわゆる「松方コレクション」を展示するために1959年に建てられた。設計を依頼されたル・コルビュジエは、1955年に8日間、日本に滞在し建設予定地などを視察した。その後、パリに戻ると設計図を書き上げ、翌56年に日本に届けられた。しかし、その設計図には建築に必要な数値が全く書かれておらず、ル・コルビュジエの弟子である前川國男と坂倉準三、吉阪隆正らが図面を基にして、建築のための実施設計を行った。

国立西洋美術館本館には、ル・コルビュジエの「無限成長美術館」という概念が用いられている。美術館を訪れた客が、中心から渦巻状に移動しながら展示室を鑑賞するだけでなく、将来的に展示作品が増えれば螺旋状に展示室を外側に増設して広げてゆくことが考えられていた。また、美術館としては珍しく、自然光を取り込むための窓や照明ギャラリー（現在は蛍光灯が入れられている）が作られた。1996年には、巨大地震に対応するための免震工事が行われた。工事に際しては、国立西洋美術館本館の建物自体の文化財的価値が高いため、建物本体には手を加えず、地下の基礎部分に免震装置が取り付けられた。免震工事は屋外の彫刻品ひとつひとつにも施されている。



国名	資産名
フランス共和国	①ラ・ロッシュ・ジャンヌ邸 ②ペサックの集合住宅 ③サボア邸と庭師小屋 ④ポルト・モリトの集合住宅 ⑤マルセイユのユニテ・ダビタシオン ⑥サン・ディエの工場 ⑦ロンシャンの礼拝堂 ⑧カップ・マルタンの休暇小屋 ⑨ラ・トゥーレット修道院 ⑩フィルミニの文化の家
ベルギー王国	⑪ギエット邸
スイス連邦	⑫レマン湖の小さな家 ⑬イムーブル・クラルテ
インド	⑭チャンディガールのキャピトル・コンプレックス
アルゼンチン連邦共和国	⑮クルチェット邸
ドイツ連邦共和国	⑯ワイセンホフ・ジードルンクの住宅
日本国	⑰国立西洋美術館

遺産名	保有国名	登録年
エルサレムの旧市街とその城壁群	エルサレム(ヨルダン・ハシェミット王国による申請遺産)	1982
チャンチャンの考古地区	ペルー共和国	1986
ニンバ山厳正自然保護区	ギニア共和国及びコートジボワール共和国	1992
アイールとテネレの自然保護区群	ニジェール共和国	1992
ヴィルンガ国立公園	コンゴ民主共和国	1994
シミエン国立公園	エチオピア連邦民主共和国	1996
ガランバ国立公園	コンゴ民主共和国	1984～92, 1996
オカピ野生動物保護区	コンゴ民主共和国	1997
カフジ・ビエガ国立公園	コンゴ民主共和国	1997
マノヴォーグンダ・サン・フローリス国立公園	中央アフリカ共和国	1997
サロンガ国立公園	コンゴ民主共和国	1999
ザビードの歴史地区	イエメン共和国	2000
聖都アブー・メナー	エジプト・アラブ共和国	2001
ジャームのミナレットと考古遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2002
バーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2003
アッシュル(カラット・シェルカット)	イラク共和国	2003
コモエ国立公園	コートジボワール共和国	2003
ハンバーストーンとサンタ・ラウラの硝石工場群	チリ共和国	2005
コロとその港	ベネズエラ・ボリバル共和国	2005
コソボの中世建造物群	セルビア共和国	2006
古代都市サーマッラー	イラク共和国	2007
ニョコロ・コバ国立公園	セネガル共和国	2007
ベリーズ・バリア・リーフ自然保護区	ベリーズ	2009
カスビのブガンダ王国の王墓	ウガンダ共和国	2010
ゲラティ修道院	ジョージア	2010
アツィナナナの熱帯雨林	マダガスカル共和国	2010

遺産名	保有国名	登録年
エヴァーグレーズ国立公園	アメリカ合衆国	1993～2007, 2010
スマトラの熱帯雨林遺産	インドネシア共和国	2011
リオ・プラタノ生物圏保存地域	ホンジュラス共和国	1996～2007, 2011
リヴァプール海商都市	英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)	2012
パナマのカリブ海側の要塞群:ポルトベロとサン・ロレンツォ	パナマ共和国	2012
アスキア墳墓	マリ共和国	2012
イエス生誕の地:ベツレヘムの聖誕教会と巡礼路	パレスチナ自治政府	2012
伝説の都市トンブクトゥ	マリ共和国	1990～2005, 2012
アレppoの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
クラック・デ・シュヴァリエとカラット・サラーフ・アッディーン	シリア・アラブ共和国	2013
古代都市パルミラ	シリア・アラブ共和国	2013
シリア北部の古代集落群	シリア・アラブ共和国	2013
隊商都市ボスラ	シリア・アラブ共和国	2013
ダマスカスの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
東レンネル	ソロモン諸島	2013
セルー動物保護区	タンザニア連合共和国	2014
ポトシの市街	ボリビア他民族国	2014
オリーブとワインの地ーバティールの丘:南エルサレムの文化的景観	パレスチナ自治政府	2014
サナアの旧市街	イエメン共和国	2015
城壁都市シバーム	イエメン共和国	2015
円形都市ハトラ	イラク共和国	2015
シャフリサブズの歴史地区	ウズベキスタン共和国	2016
ジェンネの旧市街	マリ共和国	2016
ガダーミスの旧市街	リビア	2016

遺産名	保有国名	登録年
キレーネの考古遺跡	リビア	2016
サブラータの考古遺跡	リビア	2016
タドラールト・アカークスの岩絵遺跡群	リビア	2016
レプティス・マグナの考古遺跡	リビア	2016
ナン・マトール：ミクロネシア東部の儀礼的中心地	ミクロネシア連邦共和国	2016